

「ホンワカキャップ」

経済学部2回生 山中

私が紹介したい藤子作品おすすめの1話は、『ドラえもん』より「ホンワカキャップ」です。この話は、ビールを飲んでいるパパと客が上機嫌であるのを見て、のび太が自分も酔っぱらってみたいと羨望し、ドラえもんからホンワカキャップというひみつ道具を出してもらうところから始まります。このホンワカキャップを飲み物容器の注ぎ口に装着し、それを通して注いだ飲料を飲むと、一時的にお酒を飲んだような酩酊状態になります。話の中で、いつもの5人（のび太・ドラえもん・しずか・スネ夫・ジャイアン）が使用するのですが、その酔っ払い方にそれぞれの個性が表れていて、ここがなかなか面白いわけです。

私の持論では（というより、よく言われていることですが）、お酒は人の本性をさらけ出します。酔っぱらった人格は結局その人の本性なのだということです。この5人の場合でも、それが言えていると感じます。まず、のび太・しずか・ドラえもんは、「飲めや歌え。おどれやおどれ」といった陽気な酔っ払い方をしています。本質的に明るい性格である3人を的確に表しているのではないのでしょうか。その後、のび太やドラえもんはジャイアンとスネ夫に出会い、気前よくホンワカキャップを貸しています。いつもならば、ひみつ道具の貸し出しを渋るであろう2人ですが、気分が良いと寛容になるのが人の性なのでしょう。そして、スネ夫・ジャイアンの2人はこの話のオチ担当でもあるのですが、ホンワカキャップで酔っぱらった際、普段の彼らとは乖離した人格へと変貌します。2人は先の3人よりも摂取量が多かったこともあってか、スネ夫はジャイアンに対し、「(ジャイアンの歌に対して：引用者注) へたくそをへたくそといってなにが悪い、へたくそ」「おまえなんか町の公害だぞ!!」などと罵詈雑言を浴びせ、それに対しジャイアンは「グス。なんにもそんなに……、いわなくても…」「心の中では……、みんなに悪いと……、あたしつらい！」などと女々しくなり、キャラ崩壊(?)しています。しかしながら、これもまた彼らの本性なのだと考えます。スネ夫は毒舌家で密かにジャイアンに陰口を叩くところがあったり、ジャイアンもままごとが大好きだったり、案外合致しているのです。

以上のように、「ホンワカキャップ」ではキャラクターの個性が的確に捉えられ、それがありありと描き出されているのです。未成年の疑似飲酒行為も現在の漫画業界ではNG¹でしょうから、こういった『ドラえもん』原作特有の面白さを味わうことができるという点でも貴重なお話です。ぜひ一度ご覧ください！

¹ とある作品内にてホンワカキャップに言及し、現在では未成年の疑似飲酒がダメであることが示唆されている（中村力斗・野澤ゆき子, 2023, 「第109話 恋太郎ファミリーの本気飲み会ごっこ」『君のことが大大大大大好きな100人の彼女 13』集英社.)